

## 第1回東京都安全・安心まちづくり有識者懇談会」の開催結果について

### 1 開催目的

最近の犯罪情勢を見ると、国際化、組織化、ハイテク化が進み、その内容も凶悪化、巧妙化しています。また、刑法犯の認知件数が戦後最悪を更新し続けるなど、一段と厳しさを増しています。

このような情勢から、東京における犯罪を防止し、都民が安全で安心して暮らせるまちづくりを行うための有効な方策等を検討するため、各界の有識者から成る「東京都安全・安心まちづくり有識者懇談会」が設けられ、このたび第1回懇談会が開催されました。

この懇談会では、

- ・ 都民の防犯意識の向上と地域コミュニティ活動の推進
- ・ 犯罪に強い環境整備による「安全・安心まちづくり」の推進

などが検討されることとなっており、今回は、

犯罪多発の原因

地域コミュニティの重要性

を中心に検討しました。

### 2 開催日

平成14年12月18日(水)

### 3 開催場所

東京都庁内会議室

### 4 委員(7名)

座長	成田 頼明 氏	横浜国立大学名誉教授・日本エネルギー法研究所理事長
委員	上村 弘明 氏	(財)東京防犯協会連合会 専務理事
	小出 治 氏	東京大学教授
	小宮 信夫 氏	立正大学文学部社会学科助教授
	小山 洋子 氏	(社)東京都小学校PTA協議会 会長
	平野 啓子 氏	語り部、テレビキャスター
	前田 雅英 氏	東京都立大学教授

五十音順

### 5 発言要旨

冒頭、生活安全部長が「第1回東京都安全・安心まちづくり有識者懇談会」の開催に当たっての挨拶を行いました。

生活安全総務課長が、平成14年版警察白書から抜粋された資料(全国の刑法犯総

数の認知「検挙状況の変化」「国民の意識の変化」「国民の抱く不安感の実態調査」等)について説明を行いました。

その後、以下のとおり意見交換が行われました。

### 犯罪多発の原因」について

最近の犯罪の多発は、

- ・ 長引く不況による経済情勢の悪化
- ・ 来日不良外国人の暗躍
- ・ 地域社会の一体感・連帯意識の希薄化
- ・ 遵法意識・遵法精神の低下

のほか

- ・ 少年犯罪の増加
- ・ ライフスタイルの欧米化に伴う自己中心主義の風潮

などが原因ではないかとの意見が出されました。

その中で

- ・ 高層マンション等の出現によって、近隣と接触する機会が減少していること
- ・ 若い世代において、個性的に生きることと自分勝手に生きることとを取り違えている人が増えていること
- ・ 大人社会の自己啓発能力が低下していること
- ・ 地域における犯罪抑止力が低下していること

などを指摘する意見もありました。

### 地域コミュニティの重要性」について

これからの地域コミュニティは、

- ・ 警察に守ってもらうだけでなく、「自ら地域を守る」という意識の醸成
- ・ 官民一体となった強い地域コミュニティの形成
- ・ 高齢者、青少年が活動しやすい受け皿づくり
- ・ 地域コミュニティを脅かす犯罪についての情報の共有化

などが、一層重要視されなければならないという認識が示されました。

その中で

- ・ 「人まかせ」ではなく、地域が「自分のまちは自分で守る」という認識を持つための条例が必要である
- ・ 欧米でいうところの「コミュニティエンパワーメント」として、コミュニティに力をつけさせることが必要である
- ・ 高齢者や青少年の生き甲斐などを積極的に考えて、地域コミュニティの活性化を

図るべきである

- ・ 身近で何が問題であるのかを把握するため、警察は、もっと積極的に情報提供を行うべきである

などの意見がありました。

このほか

- ・ スウェーデンのストックホルムでは、元非行少年に地下鉄パトロールの仕事をさせており 彼らは仕事 収入 社会貢献の 3つを得て、非行少年のトラブルなどに対して非常に効果を上げている。
- ・ イギリスでは、居場所がない青少年に、スポーツ等をさせる場所として「ユース・シェルター」と呼ばれるものがある。

など、外国の制度についての紹介もありました。

### 犯罪に強い環境整備」について

安全 安心まちづくりを考えていく上では、ソフト面も大事であるが、ハード面の検討も必要であり、

- ・ 侵入犯罪等に対して、日本の住宅構造は脆弱なので、早急に改善を要すること
- ・ 都市計画の段階から、防犯に配慮した環境設計を考えていく必要があること

など、犯罪の機会を減らす環境づくりに関する意見が出され、東京都全体の問題として取り組むことが重要であるという認識が示されました。

さらに豊島区では、条例に基づき、建築確認申請時に警察署で防犯面での指導を受けるよう教示しており 防犯性の高いものを設計の段階から考えていくことなどが紹介されました。